



各種ツール 操作マニュアル

T00-01 データフィルタ

株式会社 エヌジェーケー

- ・このソフトウェアの著作権は、株式会社エヌジェーケーにあります。
- ・このソフトウェアおよびマニュアルの一部または全部を無断で使用、複製することは法律で禁止されております。
- ・このソフトウェアおよびマニュアルは、本製品の使用許諾契約書のもとでのみ使用することができます。
- ・このソフトウェアおよびマニュアルを運用した結果の影響については、一切責任を負いかねますのでご了承ください。
- ・このソフトウェアの仕様およびマニュアルに記載されている事項は、将来予告なしに変更することがあります。
- ・このマニュアルで使用している画像には、開発中のものも含まれます。実際の製品と異なる場合がございますことをご了承ください。

DataNature および DataNature Smart は、株式会社エヌジェーケーの登録商標です。
その他の商品名は、一般に各社の商標または登録商標です。

CONTENTS

マニュアルの表記	T00-01_0
1.DataNature Smart 全体概要図	T00-01_1
2.データフィルタの概要.....	T00-01_2
3.データフィルタを利用するにあたって(前提条件)	T00-01_3
4.データフィルタの設定.....	T00-01_4
4-1 フィルタ条件の種類.....	T00-01_4
4-2 フィルタ条件の設定.....	T00-01_5
◆データファイルの指定	T00-01_5
◆フィルタ条件のひな形の定義.....	T00-01_7
4-3 テスト実行	T00-01_8
4-4 設定済みの条件の編集.....	T00-01_10

マニュアルの表記

◆ 呼称について

本マニュアルでは以下の呼称を使用しています。

DataNature Smart 管理ツール :DN 管理ツール

DataNature Smart クライアント :DN クライアント

◆ 画面に表示されるコマンド名などの文字

コマンド名やダイアログボックス名など、画面上の固有の文字は [] で囲んで表記します。なお、ユーザーによって異なるデータボタンは < > で囲んで表記します。

【例】

[編集]コマンド、[検索]ダイアログボックス

<大阪営業所>データボタン

◆ マニュアルで使用しているアイコン



“注意”を意味します。

知っておくべき重要な事柄や行なってはならない操作など、注意すべきことについて記載されています。



“ポイント”を意味します。

操作や内容のポイントとなる事柄について記載されています。



“参考”を意味します。

知っておくと便利な操作や内容などのノウハウについて記載されています。



“参照”を意味します。

操作や内容に関連するマニュアルの参照ページについて記載されています。

◆ マニュアルで使用している画像について

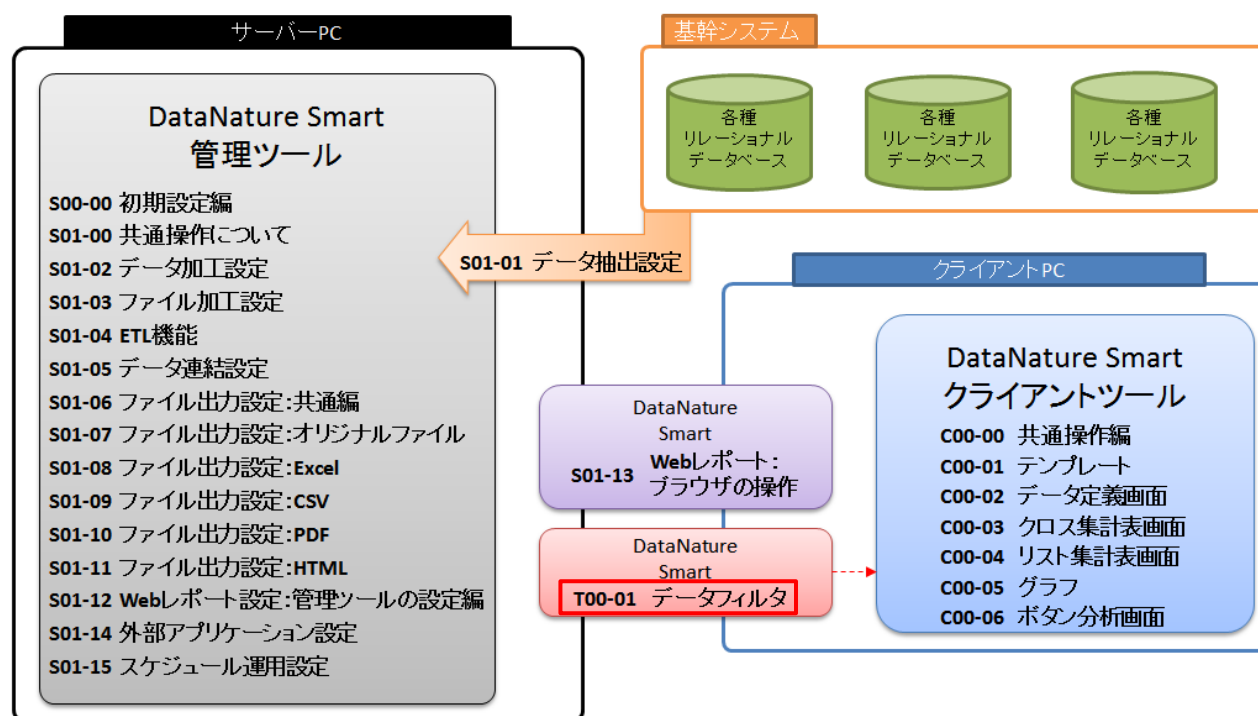
マニュアルで使用している画像には、開発中のものも含まれます。実際の製品と異なる場合がございますことをご了承ください。

◆ 機能について

導入された製品構成によって、利用できない機能や制限があります。

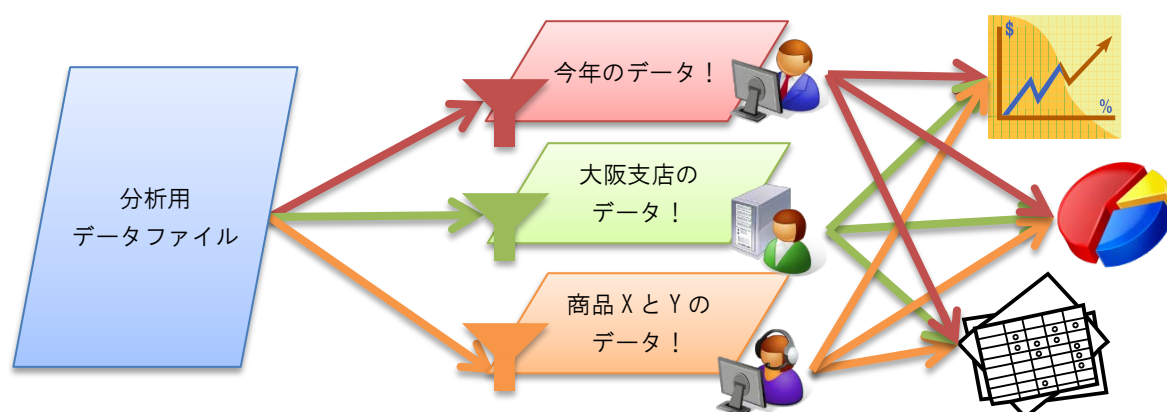
1. DataNature Smart 全体概要図

本マニュアルでは、T00-01 データフィルタについて記載しています。



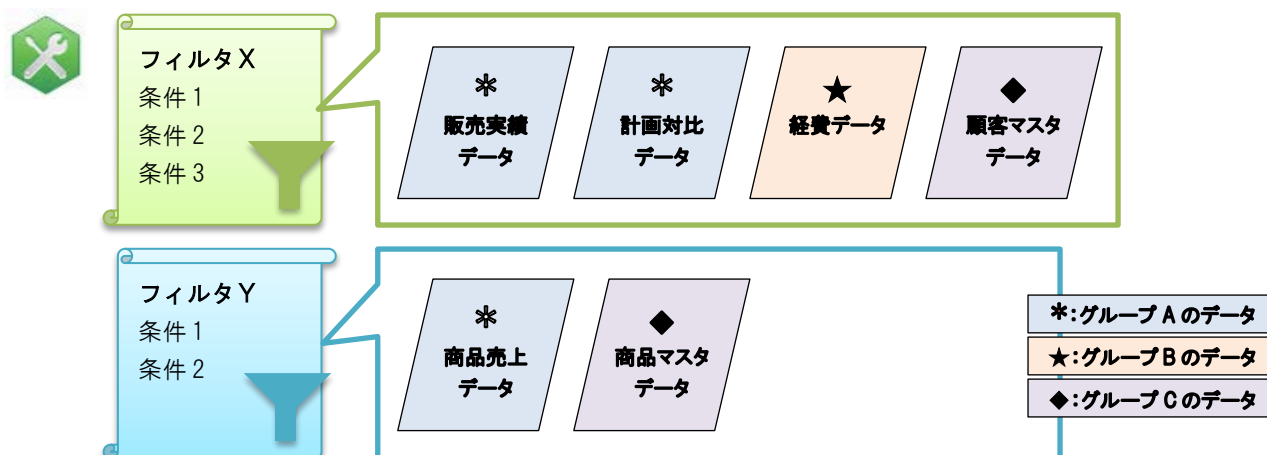
2. データフィルタの概要

データフィルタは、DN クライアントツールの分析対象として利用するデータの範囲(件数)を、任意の条件にて事前に絞り込む機能です。データフィルタを利用することで、テンプレートに登録されているクロス集計表やリスト集計表、グラフ、印刷/PDF レポートを、目的に見合う特定のデータに限定して実行することができます。



データフィルタで限定できるデータ項目については、あらかじめ DataNature Smart 管理ツールで、条件の入力フォーマットや、フィルタを適用するデータファイルを定義しておきます。

データフィルタを適用した DataNature Smart フォルダ上のデータを DataNature Smart クライアントツールで開くと、自動的にフィルタ条件指定用画面が表示され、事前に定義された条件内で、お好みのデータを限定して利用することができます。



※同一の DataNature Smart フォルダ内にあるデータファイルに対しては、複数のデータフィルタを関連付けることはできません。

※ひとつのデータフィルタを、複数のデータファイルで共用することが可能です。ただし、フィルタ条件に使用されている項目のデータ構成(属性など)や列 No が同じであることが前提となります(項目名称の差異には対応できません)。

3. データフィルタを利用するにあたって(前提条件)

データフィルタを利用するには、あらかじめ、以下の設定が必要です。

◆ DN 管理ツール

- ・ユーザー設定
- ・グループ設定
- ・グループ設定で指定したフォルダーに、分析用データファイルが格納されている

◆ DN クライアントツール

- ・クライアントモードで起動

また、条件の中でドロップダウンリストを利用する場合には、リストに該当する各種マスタファイルを予め準備しておく必要があります。



ユーザー設定およびグループ設定については、S00-00「初期設定編」をご覧ください。



データフィルタは、DN クライアントツールをスタンドアロンモードで起動した場合にはご利用いただけません。

4. データフィルタの設定

4-1 フィルタ条件の種類

データフィルタで定義できるフィルタ条件の種類は次のとおりです。

1) 範囲指定

2つの指定された値の範囲(A 以上～B 以下)のデータを読み込みます。

直接テキストボックスに値を入力する方法(範囲-入力)と、ドロップダウンリストから値を選択する方法(範囲-選択)があります。

範囲-入力:

1: 年月 - 「文字型」
 以上 以下

範囲-選択:

2: 売上金額 - 「数値型」
 以上 以下

0
 1000000
 1500000
 2000000
 2500000
 3000000
 3500000



以上、または、以下のいずれかだけを指定することも可能です。

2) 直接指定

指定された値と完全に一致したデータ(数値型/文字型/日付型)を読み込みます。

直接テキストボックスに値を入力する方法(直接-入力)と、ドロップダウンリストから値を選択する方法(直接-選択)があります。

直接-入力:

コーナー名 - 「文字型」

直接-選択:

店舗コード - 「文字型」

☒ (すべて選択)
☒ 1001
☒ 1002
☐ 2001
☒ 3001
☐ 4001



テキストボックスに入力する文字列は前方/後方/部分一致には対応していません。



ドロップダウンリストに表示するデータは、指定された選択条件ファイルを、利用の都度、毎回参照します。

また、データフィルタで認識可能なデータの種別と書式は以下のとおりです。

データの種別	説明
文字型	文字列として、データを認識する。
数値型	数値として、データを認識する。
日付型(yyyy/mm/dd)	“yyyy/mm/dd”形式の日付として、データを認識する。 (月や日のデータが1桁であっても、同様に認識可能とする。)
日付型(yyyy-mm-dd)	“yyyy-mm-dd”形式の日付として、データを認識する。 (月や日のデータが1桁であっても、同様に認識可能とする。)
日付型(yyyymmdd)	“yyyymmdd”形式の日付として、データを認識する。
日付型(yyyy/mm)	“yyyy/mm”形式の日付として、データを認識する。 (月のデータが1桁であっても、同様に認識可能とする。)
日付型(yyyy-mm)	“yyyy-mm”形式の日付として、データを認識する。 (月のデータが1桁であっても、同様に認識可能とする。)
日付型(yyyymm)	“yyyymm”形式の日付として、データを認識する。
日付型(yyyy 年度)	“yyyy 年度”形式の日付として、データを認識する。
日付型(yyyy[上期/下期])	“yyyy[上期/下期]”形式の日付として、データを認識する。
日付型(yyyy[四半期])	“yyyy[四半期]”形式の日付として、データを認識する。
日付型(yyyy 年 mm 月)	“yyyy 年 mm 月”形式の日付として、データを認識する。 (月のデータが1桁であっても、同様に認識可能とする。)

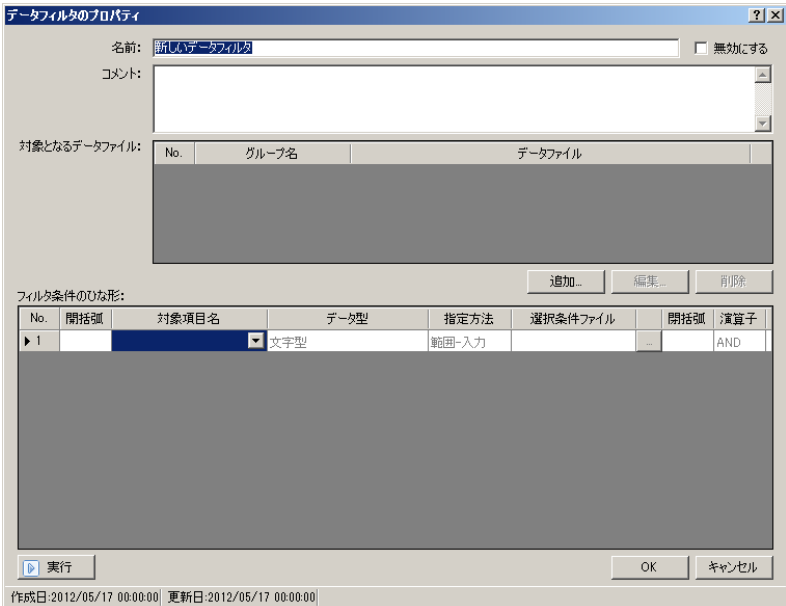
4-2 フィルタ条件の設定

◆ データファイルの指定

データフィルタを設定する対象のデータファイルを指定します。

- 1  DN 管理ツールの[DataNature の管理]-[セキュリティ設定]-[データフィルタ]ノードをクリックし、メニューバー[セキュリティ設定]-[新しいデータフィルタ]をクリックします。([DataNature の管理]-[セキュリティ設定]-[データフィルタ]ノード上のコンテキストメニュー[新しいデータフィルタ])

▼[データフィルタのプロパティ]が表示されます。



- 2 [名前:]テキストボックスに、データフィルタの名称を入力します。

- ③ [コメント:]テキストボックスに、データフィルタの説明などを入力します。
- ④ [対象となるデータファイル:]欄で、このデータフィルタを適用するデータファイルを指定します。
[追加]ボタンをクリックします。
- ▼[データファイルを開く]ダイアログボックスが表示されます。



- ⑤ データが格納されているグループフォルダを開き、データファイルを選択します。



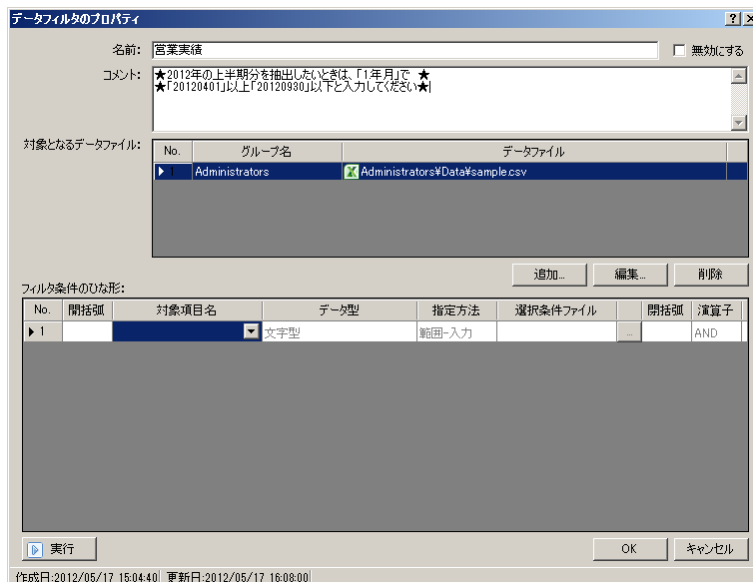
指定できるファイルの種類は、テキストカンマ区切り(*.csv)、または、DataNature Smart オリジナルファイル(*.xdsf)の何れかです。[オリジナルファイル(*.xdsf) ▼]ボタンをクリックして、対象を切り替えて選択します。

- ⑥ [開く]ボタンをクリックします。



対象のデータファイル名をダブルクリックしても、ファイル選択→[開く]ボタン押下と同じ操作になります。

▼[データフィルタのプロパティ]ダイアログボックスに戻ります。
選択したデータファイルが、[対象となるデータファイル]欄にリスト表示されます。



ひとつのデータフィルタを、複数のデータファイルで利用することができます。[追加]ボタンから、必要なデータファイルをひとつずつ追加してください。

なお、[編集]ボタンをクリックすると、データファイルを選択し直すことが可能です。また、不要になったデータファイルは[削除]ボタンで、対象から削除してください。

◆ フィルタ条件のひな形の定義

フィルタ条件のひな形を定義します。



フィルタ条件の種類や日付型の書式などは、T00-01_4「フィルタ条件の種類」を参照してください。

- ① 対象となるデータファイルの指定ができれば、フィルタ条件のひな形を定義します。

▼ここでは、以下の条件を定義します。

対象項目名	データ型	指定方法
売上日	日付型 (yyyy/mm/dd)	範囲-入力
店舗コード	文字型	直接-選択
売上金額	数値型	範囲-選択

- ② 各項目にある[▼]ボタンをクリックし、ドロップダウンリストから対象項目を選択します。

▼No.1 の対象項目名のドロップダウンリストから「売上日」を選択します。

フィルタ条件のひな形:

No.	開括弧	対象項目名	データ型	指定方法	選択条件ファイル	開括弧	演算子
▶ 1		1. 売上日 2. 店舗コード 3. 店舗名 4. コーナー名	文字型	範囲-入力			AND

- ③ 続いて「データ型」を選択します。ここでは「日付型 (yyyy/mm/dd)」を選択します。



数値だけで構成されたデータを文字型として設定できます。逆に、数値以外の文字が混在したデータを数値型として設定すると、データ型が一致しない旨のメッセージが表示され、データが取得できません。

- ④ 続いて「指定方法」を選択します。ここでは、「範囲-入力」を選択します。

- ⑤ 複数の条件を定義する場合は「演算子」を選択します。ここでは、初期値の「AND」のままにします。



AND は、設定した複数の条件を同時に満たすデータが対象となり、OR は、設定した複数の条件のいずれかを満たすデータが対象となります。

- ⑥ No.2 のドロップダウンリストから、「店舗コード」を選択します。

- ⑦ 「データ型」は、「文字型」を選択します。

- ⑧ 「指定方法」は、「直接-選択」を選択し、選択条件ファイルを指定します。

▼「選択条件ファイル」の右端にある参照ボタンから、ファイルを選択できるようになります。

フィルタ条件のひな形:

No.	開括弧	対象項目名	データ型	指定方法	選択条件ファイル	開括弧	演算子
1		1. 売上日	日付型 (yyyy/mm/dd)	範囲-入力			AND
▶ 2		2. 店舗コード	文字型	直接-選択			AND

- ⑨ 参照ボタンをクリックします。

▼[選択条件ファイルの設定]ダイアログボックスが表示されます。

選択条件ファイル設定

選択条件ファイル:

列番号:

データ開始行:

☐ フィルタ条件の指定なしを禁止する

OK キャンセル

- ⑩ フィルタ条件指定用のドロップダウンリストに表示する選択条件ファイルを指定します。ファイルの種類は、テキストカンマ区切り (*.csv) です。

▼指定したファイルのパスが表示されます。

対象データが存在する列番号とデータの開始行を[▲][▼]ボタン、または、直接値を入力して設定します。

11 [OK]ボタンをクリックします。

▼「選択条件ファイル」に、指定した選択条件ファイルのパスが表示されます。

フィルタ条件のひな形:

No.	開括弧	対象項目名	データ型	指定方法	選択条件ファイル	開括弧	演算子
1		1: 売上日	日付型(yyyy/mm/dd)	範囲-入力			AND
▶ 2		2: 店舗コード	文字型	直接-選択	D:\NJK\DataNature ...		AND

12 さらに、No.3 のドロップダウンリストから、「売上金額」を選択します。

13 「データ型」は、「数値型」を選択します。

14 「指定方法」は、「範囲-入力」を選択します。



ひな形の削除は、対象の条件で右クリックし、コンテキストメニュー[削除]から行います。

No.	開括弧	対象項目名	データ型
1		1: 年月	数値型
2		2: 店舗コード	文字型
▶ 3		3: 数量	数値型
4			

15 ひな形の定義が完了したら、[OK]ボタンをクリックし、データフィルタの設定を完了します。

4-3 テスト実行

設定したデータフィルタのテスト実行を行います。

1 DN 管理ツールの[DataNature の管理]-[セキュリティ設定]-[データフィルタ]ノードにある、編集対象のデータフィルタ名をクリックし、メニューバー[編集]-[プロパティ]をクリックします。
 ([DataNature の管理]-[セキュリティ設定]-[データフィルタ] ノードにある、編集対象のデータフィルタ名上のコンテキストメニュー[プロパティ])

▼[データフィルタのプロパティ]が表示されます。

No.	グループ名	データファイル
▶ 1	Administrators	Administrators\Data\sample.csv

No.	開括弧	対象項目名	データ型	指定方法	選択条件ファイル	開括弧	演算子
▶ 1		1: 年月	数値型	範囲-入力			AND
2		2: 店舗コード	文字型	直接-選択	C:\NJK\DataNature ...		AND
3			文字型	範囲-入力			AND



対象のデータフィルタ名でダブルクリックしても、[データフィルタのプロパティ]を表示することができます。

2 [実行]ボタンをクリックします。

▼フィルタ条件指定用ダイアログが表示されます。

3 条件を指定します。ここでは、以下の条件を指定します。

1. 年月-「数値型」(20110401 以上 20110630)

2. 店舗コード-「文字型」(1001,2001,3001)



入力した条件を一括で消去するには、[クリア]ボタンをクリックします。

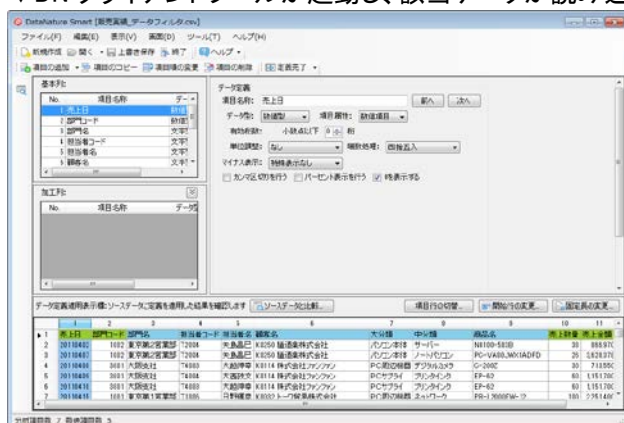
4 [該当件数を確認]ボタンをクリックします。

▼条件に該当したレコード件数が表示されます。



条件に該当するデータ量が多いことが予想される場合は、「☐件数を制限して実行する」をチェックオンにしてから、[該当件数を確認]ボタンをクリックしてください。1～10000 の範囲で指定できます。

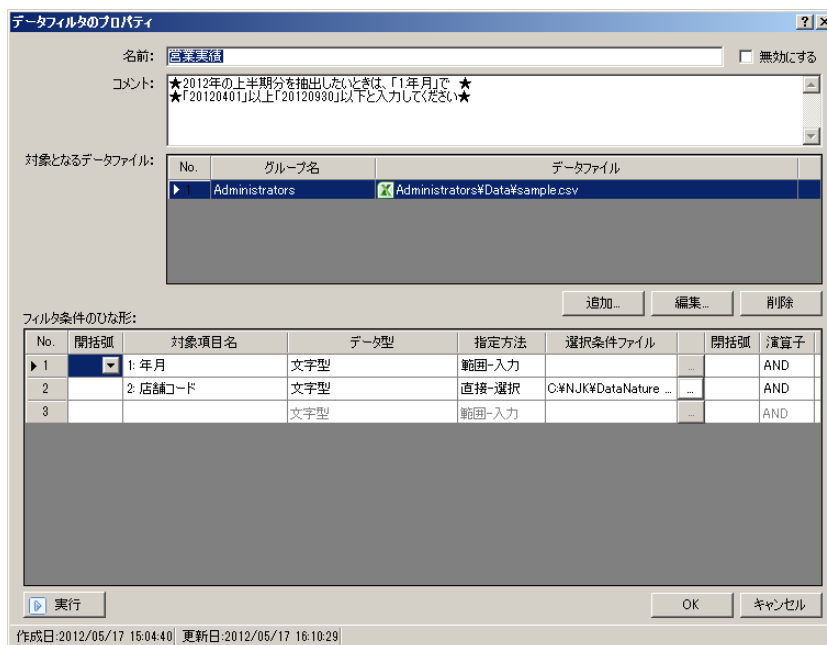
- 5 [はい]ボタンをクリックします。
▼DN クライアントツールが起動し、該当データが読み込まれます。



4-4 設定済みの条件の編集

設定済みのデータフィルタを編集します。

- 1 DN 管理ツールの[DataNature の管理]-[セキュリティ設定]-[データフィルタ]ノードにある、編集対象のデータフィルタ名をクリックし、メニューバー[編集]-[プロパティ]をクリックします。
([DataNature の管理]-[セキュリティ設定]-[データフィルタ] ノードにある、編集対象のデータフィルタ名上のコンテキストメニュー[プロパティ])
▼[データフィルタのプロパティ]が表示されます。



対象のデータフィルタ名でダブルクリックしても、[データフィルタのプロパティ]を表示することができます。

- 2 編集後、[OK]ボタンをクリックします。
▼DN 管理ツールに戻ります。